

たゆまぬプロセス改善と独自技術の磨きあげにより お客様の期待を超える品質・サービスを提供

同社は1970年創業の大径薄肉パイプ専門メーカーである。独自の高度な塑性加工技術と溶接技術により、大径薄肉でありながら優れた加工性を有するステンレス・鉄・チタンのパイプを製造している。同社のパイプは、乗用車・トラック・建設機械・農業機械・家電機器・住宅設備等の多種多様な用途に採用され、高い占有率を誇っている。国外でも、米国に関連会社、タイに協力会社を有し、世界中に日本と同品質の製品を提供している。

所在地 愛知県豊川市平尾町天間48番地

電話/FAX 0533-88-4151/0533-88-5296

URL <https://www.shinnichikogyo.co.jp/>

代表者 代表取締役社長 木下 雄輔

設立 1970年

資本金 7,120万円

従業員数 60人



品質・サービスを向上し、お客様の期待を超える

同社の品質管理部が、顧客の製品立ちあげから量産までをフォローするほか、顧客の要望を「顧客アンケート記録」にまとめ、全社で協力して品質を改善している。また、環境規制対応等の時代の変化に沿った顧客の要望実現に向け、製造するパイプのサイズ範囲を拡大（より薄い、より大径など）したり、高精度化、金型レス、新鋼種の採用にも積極的に取り組んでいる。広く顧客の困りごとと解決にも目を向けることで、製品を含めた同社の付加価値向上に取り組んでいる。



お客様ごとのニーズに合わせた対応力

たゆまぬプロセス改善とITの融合

同社は、改善提案活動（年間提案件数 2,200 件）やQCサークル活動（成果発表会 117 回実施〈2021.8月現在〉）を制度化し、継続的に生産活動や事務の改善に取り組んでいる。IT活用においては、CRM・SFA等の営業支援ツールやOffice365等のグループウェアの導入および社内の届出等のワークフローのクラウド移行により業務を効率化。現在は、基幹業務システム導入による、生産管理の効率化に取り組んでいる。



たゆまぬプロセス改善

独自技術のさらなる磨きあげ

独自の溶接技術・塑性加工技術双方にまたがる境際的な技術の研究開発に、冶金学・化学の切り口からアプローチし、独創技術のブラッシュアップを継続的に実施している。地元国立大学と共同で、要素技術の棚卸による強みの再発見を進めたほか、製品開発のスピードアップに向けた研究に取り組んでいる。また、納入先の排気系部品メーカーとの新製品開発の共同プロジェクトも進め、成果獲得レベル・スピードの向上に取り組んでいる。低コスト化への対応として、自動化・金型レス化等の生産方法の開発にも取り組んでいる。



厳しい加工に耐えうる高延性パイプ